

ピジョン(7956)



－ 上期落ち込んだ中国は足元で回復 －

ピジョンが5日に発表した上期(2-7月期)決算は、売上高が前年同期比0.5%減収の463億円、営業利益が同0.6%増益の78億円となりました。円高を受けて海外が減収減益となり売上高、営業利益とも伸び悩みましたが、国内が増収増益と健闘し社内計画はクリアしています。

国内事業は25億円近い増収となりました。このうちインバウンドによる増収が15億円程度とピジョンでは推計しています。欠品を起こさないようにすることなどでインバウンド需要を積極的に取り込んだことからインバウンド売上げは前上期の9億円から24億円へと拡大しています。

上期の中国での売り上げは現地通貨ベースで5.7%減収となりました。しかし、これは前上期の水準が高かったため、足元までの累計では前期を10%程度上回る水準まで上昇してきているようです。このため通期でも現地通貨ベースで11%増収を見込んでいます。

2017年8月に会社設立60周年を迎えることからピジョンでは決算発表にあわせて記念配当6円を実施し年間配当を前期の42円から50円へと引き上げると発表しました。そしてこの記念配当6円に関してピジョンでは、普通配当として来期も残す予定だとしています。

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会